

◎ 税制上の優遇措置

1 | 個人のご寄付

寄附金控除制度を利用して、寄附金額から 2,000 円を差し引いた額で、所得控除を受けることができます（控除の対象となる寄附金額は総所得金額の 40% が上限）。詳細は本基金ホームページをご確認ください。

2 | 法人のご寄付

法人様のご寄付はその全額を損金に算入可能です。損金算入の方法として、「特定公益増進法人に対する寄附金」があります。この制度を利用することで寄付金の損金算入限度額にかかわらず、全額損金算入することができます。

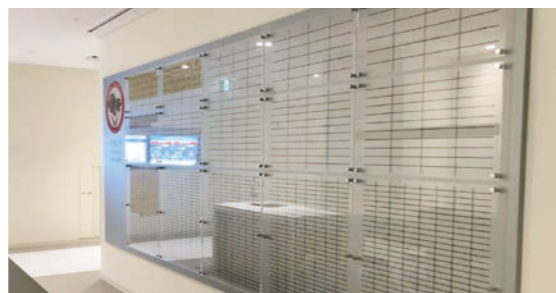
優遇措置を受ける方は別途お送りする本学発行の「寄附金領収証」に基づき、所管税務署にて確定申告をしてください。
寄附金領収証は12月までにお届けいたします。
※12月中のクレジットカード決済のご寄付は決済システムの設計の都合で、領収書発行は、2月末にお届け予定となりますのでご了承ください。

◎ 顕彰制度

感謝の気持ちを込めて、寄付金額に応じて新医学部棟（治療学研究棟）4F ラウンジにて、ご芳名を刻印した銘板の掲示や記念品の贈呈をさせていただきます。また、ご寄付いただいた方には謝恩会へご招待するなど、各種、基金室より特別案内を予定しております。

謝意	個人	法人
新医学部棟講義室命名権	1,000万円～	1,000万円～
クリスタル表彰プレート	100万円～	500万円～
銘板（大）の掲示	100万円～	500万円～
銘板（中）の掲示	50万円～	200万円～
銘板（小）の掲示	10万円～	50万円～
オリジナルペーパーウェイト	3万円～	10万円～
お名前をHPへ掲載	希望者全員	希望者全員

※新医学部棟講義室命名権は、別途規定がございます。お問い合わせいただきますよう宜しくお願い申し上げます。



新医学部棟 4F ラウンジに設置する寄付者顕彰銘板
皆様のお名前を刻み、永久に保存します。



ペーパーウェイト
千葉医学のロゴがデスクを飾ります。



クリスタル表彰プレート
皆様のお名前を刻印し、私たちがお届けにあげます。

◎ ご寄付のお申し込み方法（書面によるお申込み）

- 1 千葉大みらい医療基金の指定する亥鼻弓道場建設プロジェクト専用の払込取扱票に必要事項（お名前／ご住所／お電話番号又はメールアドレス）をご記入し、お近くの金融機関でお振込み手続きをお願いいたします。（追加の払込取扱用紙をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。）
- 2 現金をお持ち込みになりご寄付をされる場合は、みらい医療基金室にて受け付けております。ご来校の際はお手数ですがご連絡いただきますようお願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、基金室までお気軽にお問い合わせください。

国立大学法人 千葉大学大学院医学研究院・医学部
千葉大みらい医療基金

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 医学部 4F
☎ 043-226-2286 ✉ chiba-med-funds@chiba-u.jp 🌐 <https://www.mirai-fund.chiba-u.jp/>



亥鼻弓道部新弓道場

設立支援のお願い

千葉大学亥鼻弓道部・千葉大みらい医療基金

◎ 部長・OB 会長挨拶



亥鼻弓道部
部長 加藤直也



亥鼻弓道部
OB会長 菊地紀夫

亥鼻弓道部新弓道場の設立にあたり

平成29(2017)年に90周年を迎えた亥鼻弓道部の活動拠点である一如堂は、耐震強度不足で倒壊の恐れがあるとのことで取り壊されましたが、その魂は脈々と受け継がれております。この度、医学部の活動を支えるために設置された千葉大みらい医療基金と協力し、次世代のための新たな拠点を作ります。新弓道場の工事費用は約3000万円ほど見込まれております。あたたかいご寄付を賜れば幸いです。亥鼻弓道部100周年へのさらなる飛躍に向けて、新しい歴史の第一歩を皆様と歩んでまいりたいと思っております。

目標金額：3000万円 新弓道場設置費用として



90年以上の歴史を刻んだ一如堂



一如堂落成記念の扇面と手拭



◎ 現役学生からのメッセージ

90年の伝統の継承のため

現在私たちは約30名で活動しておりますが、道場がないため市内の施設を借りて練習しております。しかし、弓や矢は毎回持ち歩かねばならず、練習回数も週に2回が限度であり、練習の質、量とも維持することが困難です。道場がないため自主練習もできず、新入生の勧誘も難しいため一時と比べ、大会での成績も低迷しており、道場がないことは喫緊の課題です。新道場を設置し、弓道が面白いと思ってもらえる新入生を増やし、大会での成績向上を目指して千葉大学の名を残し、先輩方から受け継いだ伝統を次世代へ継承していきたいと考えております。

新道場設置にあたっての抱負

練習量の減少に伴い大会の成績や審査も以前よりレベルが落ちつつあります。今は練習環境の問題で新入生に弓道を教えるスペースも時間も少ないのが現状です。新道場ができることで、まずは公式戦の入賞、未経験の入部者も卒業までには参段を取れるようにして、弓道部に「入って良かった」と全員に思ってもらえるような部活にしたいです。伝統を途切れることなく次世代に引き継ぎ、亥鼻弓道部100周年に向かっていきたいです。

主将 小林 悠真



部活動の運営の難しさ

弓道場がない中で練習時間も限られ、初心者として入ってきた部員は十分な練習時間もないままコロナ禍に突入し、次年度の新人部員の育成といった点で大変難しさを感じております。また、大会もないうえに弓道場もないため、部員のモチベーション維持には難しさを感じております。経験者として入部した新入生はもちろん物足りなさを感じていると思いますが、今の新入生が中心となって部活動を支えていく未来を見据えて、確固たる練習環境を作ってあげることが、今私たちにできることの1つです。そのため、新弓道場の設置の御支援を先輩方へお願いする次第です。何卒、宜しくお願いいたします。

一如会の象徴としての拠点設立のため

亥鼻弓道部は技術レベルの向上だけでなく、これから医療者として、社会人として歩いていく姿勢を学ぶ場でもあります。電話のかけ方、書類手続き、予算管理など、事務的なことをきちりとできる人格を形成することも先輩方から引き継いだ伝統です。新弓道場の設立は、私たちの練習環境としてもさることながら、先輩方が気軽に帰ってこれる一如会の拠点として機能し、亥鼻弓道部の更なる発展に寄与すると思っております。卒業しても弓道部の経験を忘れずに帰ってこれる拠点となることを夢見ています。

副将 野原 嘉乃



この練習環境だからこそ培った感謝の精神

今、外部の施設を借りて練習しておりますが、これがきっかけで「多くの方の協力やご理解に支えられて今の活動ができています」といったことを実感しております。このことを部員全員が理解し、部活動だけでなく普段の日常生活の中でも人を尊重し、経緯を持って礼儀正しく振舞うことのできる弓道部にしていきたいと思っています。切磋琢磨しながら技術力を向上しつつも謙虚さを忘れないバランス感覚を大切にしていきたいです。

亥鼻弓道部の精神が帰ってくる場所

今は弓道場がないため、たまたま時間が空いたから弓を引きに行こうと自主練をしたり、すぐに課題を解決修正できる場所がありません。新弓道場があれば、行けば誰がいる、OBOGの先輩方がいらっしゃるかもしれない、そのような居場所にして、先輩方との交流を深め、これからも入ってくる部員のため、来る100周年に向かって良い環境を残していきたいと思っております。

内務 大辻 琉加



現在、亥鼻弓道部は約30名で活動をしています。弓道場がないため市内の共同施設を借りて練習しておりますが、週に2回の練習が限度であり練習の量、質ともに維持することが困難です。この施設も近い将来閉鎖が決まっており、道場がないことは差し迫った問題です。先輩方から引き継いでいる伝統を継承し、卒業後も帰ってこれる拠点として、また、一如会の象徴としての新道場の設立のため、御支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

千葉大学亥鼻弓道部 現役生一同